

フェローシップ・ニュース

42

JICA & APARI フィリピンプロジェクト 活動報告 第3回派遣(2010/7/11~17)

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2010年9月1日

アパリは、平成21年度よりJICA（国際協力機構）の草の根技術協力事業として、マニラ市の貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業を展開しています。本事業により7月11日から7日間、日本のメンバー3名がフィリピンに行ってきました。派遣メンバーは、前回と同じく三浦、山本、古藤でした。

前回の今年1月の派遣では、マニラの貧困地域のマリキナとタタロンの2箇所を開始するミーティングをARM（アディクション・リカバリー・ミーティング）と名づけました。今回の派遣は、いよいよ開始となったARMの進展状況の確認、関わっている現地メンバーへのフォローアップが主な目的です。

まずは、昨年本邦研修で来日したコアメンバーのガブリエルさん、ジュンさん、デビッドさん、そしてフィリピン側のプロジェクト・マネージャーのリッチーさんと再会し、現地での活動について話す機会がありました。さらに、8月17日から本邦研修に参加する予定の新しい2名のコアメンバー（キンバートさん、キャロラインさん）とも会うことができました。

< 派遣中の主な訪問先 >

- ファミリー・ウエルネス・センター
- 危険薬物委員会(Dangerous Drug Board)
- JICAフィリピン事務所
- タタロン・ラーニング・センターにおいてARM実施



JICAフィリピン事務所での
打合せの様子

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

JICA & APARIフィリピンプロジェクト 第3回派遣報告	1 2
ダルク25周年記念フォーラム を終えて...近藤恒夫 祝辞...尾崎道明 法務省矯正局長	3
NADCP第16回トレーニング・ カンファレンスに参加して... 尾田真言	4 5
入寮者からのメッセージ... TAC	6
リカバリー・パレード案内	7
アパリからのお知らせ	8

フィリピン訪問を終えて・・・ヨウジ（三浦）

弱者の立場に立たないと見えないものがある。
私も薬物依存症で弱者の立場にあるが...今回のフィリピン貧困層への支援は私達より、より弱者な方々への支援なわけで、私にも見えない視点が沢山存在することがフィリピンに行く度に思い知らされる。

富裕層にはタガログ語だけではなく英語を使う国である有利な点も手伝って、日本よりも手厚いプログラムがある。しかし貧困層には無料ではあるが刑務所のような(軍隊のような?)施設ぐらいしか行く所がないのである。

私達が期待をもって始めたマリキナ市のプログラムがストップした。理由はマリキナ市営施設では「バイブルリーディング(聖書の読み合わせ)」を行っているのでプログラムが合わないとの事であったが、実際は選挙があり、トップが変わった為に次の指示があるまでは動けないというのが実情のようである。

私達、日本人がハワイのメンバーにご尽力頂き、今の形があるように、未だ困っている薬物依存症(今回は特に貧困層の)の手助けを自分の為に(人や組織の為に怒りに変わりやすい)これからも続けていきたいと強く思う。



危険薬物委員会(Dangerous Drug Board)を表敬訪問し、次官のガラバンテ氏と会いました。
フィリピンでは、法務省や警察庁ではなく、大統領直轄の危険薬物委員会が違法薬物に関わる取り締まり、回復支援等を統括しています。

8/17～8/28の本邦研修の様子は次号で報告します！！

書籍のご案内

拘置所のタンポポ

日本ダルク代表
近藤恒夫 著

- 目次
 プロローグ のりピー、ダルクへおいでよ
 第1章 絶頂からの転落～そして再起 わが波乱の半生
 第2章 誰が、なぜ、ヤク中になるのか
 第3章 あまりに知られていない覚せい剤の世界
 第4章 なぜ薬物依存者は立ち直りにくいのか
 第5章 立ち直るためにはどうすればよいのか
 第6章 新生した仲間たち

発売：双葉社
 定価1,400円（税別）

住所、名前、電話番号をご記入の上、下記のFAXあるいはメールにてお申し込み下さい。
 FAX：03-5830-1791
 メール：info@apari.jp

滞在中は、リッチーさん、現地コアメンバーと日本からの3名で、リッチーさんが代表を務めるファミリー・ウエルネス・センターで打合せを重ねました。4日目には実際にタタロンで行われているARMミーティングに足を運びました。

ARM開始の準備段階より、マリキナは市行政との連携で、一方のタタロンは現地NGOとの連携で進めてきました。そのため、ARMの開催場所も、マリキナは公立のリハビリ施設内で、タタロンはNGOの施設内で実施することとなりました。ふたをあけてみると、行政連動のマリキナは、実施を望む市の保健担当行政と、開催場所となっているリハビリ施設の考え方の相違ということで、ミーティングは5月7日をもって一旦中止になりました。ただし、5月の国政選挙により市の体制が変わるため、別の場所で開催する方向で今後マリキナ市と調整していく予定です。

タタロンでは、現地NGOが本活動への理解が深く積極的な協力を受けられたこと、NGOがコミュニティからの信頼が厚いこと、柔軟な対応が可能なのもあり今のところ順調に展開しています。

ARMの参加者及び協力団体スタッフからARM開催頻度を増やして欲しいという強い要望があり、今後は月に2回実施することを検討しています。この要望は、参加者からの声だけではなく、ファシリテートしているコアメンバーからの声でもあります。

コアメンバーからは、より多くの参加者が継続してARMに参加することが、本人たちの回復にとっても望ましいことであるという意見もあり、コアメンバーとしてどのようにこのプロジェクトを発展させていけるか、一緒に考えていくことができました。

7/15午前、タタロン・ラーニング・センターで行われたARMに日本メンバーも参加しました。下がその時の写真です。現地の参加者の話に加えて、日本メンバーのヨウジとマサルも自らの体験談を語りました。



リッチー氏、コアメンバー5名と日本のメンバーとの打ち合わせ(ファミリー・ウエルネス・センターにて)



リッチー氏、コアメンバー3名と日本のメンバーとの打ち合わせ



タタロンでのARMミーティングの様子

ダルク25周年記念フォーラムを終えて・・・

NPO法人アパリ理事長、日本ダルク代表
近藤 恒夫

2010年8月18日は私にとってもダルクにとっても記念すべきメモリアルな日でした。50数か所のダルクの若者たちと家族、関係者、行政、何か特別な方々でもなく、偉い人も貧しい依存者も、地位も名誉も分け隔てなく一同に集まってお祝いして下さいました事は、新たな感性を立案したようにも考えられます。

東京という町に25年前に誕生したダルクはあくまでも一つのモデルです。当時日本にはこのような形でしか薬物問題の解決策はありませんでした。これからは新しい時代にふさわしい施設が必要とされる事でしょう。その時、少しでもお役に立てれば、私としても本望です。

私たちの活動は当事者活動としての役割と21世紀のモデルが混ざり合って成長していくことになりました。私たちは社会の規範や常識に惑わされることなく、まだ苦しんでいる薬物依存者にメッセージを伝えることを第1の目的にする限り、道から逸れていくこともないでしょう。アノニミティの本質は名を隠す以外に謙虚さが優先されます。道に迷った他人に親切にしても決して名刺を渡すことはしないでしょう？同じように謙虚でなければなりません。

皆様のおかげでこのダルクが25周年を迎えるという考えられなかったことを達成することができました。本当にありがとうございました。



ダルク25周年記念
フォーラムにて

ダルク創設25周年を祝して

法務省矯正局長 尾崎 道明

ダルクの皆様方が、長く、粘り強い活動を継続され、この度創設25周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いと感謝の言葉を申し上げます。誠におめでとうございます。

顧みますと、刑事施設とダルクとの関係は、平成12年に、横浜刑務所において覚せい剤乱用防止教育を充実させるべく、日本ダルクから近藤代表をお招きし、同所の教育プログラムにグループワークを導入したことから始まったと聞いております。その後、平成16年に当局において開催いたしました「薬物事犯受刑者処遇研究会」においても近藤代表に研究会メンバーとして御参加いただき、刑事施設における薬物依存離脱指導について様々な御助言をいただきました。

現在、各刑事施設において実施している薬物依存離脱指導においては、御多忙の中、ダルクスタッフの方々が、指導協力者として定期的に同指導に参加していただき、プログラム受講者に対して熱心に薬物依存からの回復体験をメッセージとして届けてくださっております。

受講者は、従前にも増して薬物依存から離脱することの困難さを正しく理解するとともに、ダルクが実施するプログラムへの知識を深めることができるようになり、受講者の中には、ダルクスタッフの方々をモデルとして出所後の薬物のない生活をイメージできるようになったと述べる者も多くいるなど、薬物再使用を防止する動機付けを高める重要な機会となっております。ダルクスタッフの方々には、全国にわたり多数の施設において、御尽力を賜っておりますことに、改めて心から御礼申し上げる次第であります。

今日、被収容者の改善更生を目指す矯正処遇の充実が、政府の大きな課題の一つとなっており、刑事施設におきましては、それぞれの受刑者の特性に応じた矯正処遇と社会復帰支援の強化に努めておりますが、特に薬物事犯受刑者の矯正処遇を真に効果あるものとして発展させていくためには、今後ともダルクスタッフの方々の御経験に基づく助言指導が不可欠であると考えております。

今後とも、ダルクの皆様方の御協力を得て、矯正処遇の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、ダルクの一層の御発展と、皆様方のますますの御活躍を心からお祈りし、私の祝辞といたします。



懇親会にて

NADCPの第16回トレーニング・カンファレンスに参加して

事務局長 尾田真言

2010年6月2日(水)～5(土)の4日間ボストンで開催されたNADCPのトレーニング・カンファレンスに今年も参加してきました。これで連続8回目の参加となります。

全米ドラッグ・コート専門家協会 (National Association of Drug Court Professionals、以下NADCPと言います。)は、1989年のドラッグ・コート創設から5年経過した1994年に設立された。ドラッグ・コートの実務家(裁判官、検察官、弁護士、保護観察官、ケースワーカー、カウンセラー、TCや薬物依存症リハビリ施設などのトリートメント・プロバイダーのスタッフ等)と関連団体の関係者(自助グループ、薬物検査キット製造業者、出版社等)がメンバーになっています。NADCPの活動目標は、ドラッグ・コートを発展させ、資金援助を行い、最新情報を提供し、相互に情報交換しあうことにあります。NADCPは1995年から毎年トレーニング・カンファレンス(研修会)を開催し、ドラッグ・コートの担い手たちに、ドラッグ・コートをめぐる諸問題についての最新情報を提供し、参加者を教育しています。出席者のほとんどがドラッグ・コート業務に携わっている実務家であり、この研修会自体が、NADCPとしての統一的な見解を関係者に周知徹底する場として機能しているようです。

今年のテーマは「Putting a Drug Court Within Reach of Every American in Need (ドラッグ・コートを必要とする全てのアメリカ人の手の届くところに設置しよう)」というものでした。4日間にわたる研修は、26ものさまざまなテーマに分かれたセッションで同時進行していました。

その一つとして、昨年から、実際にドラッグ・コートに傍聴に行くツアーが企画されていますが、今年は初日の6/2(水)朝8時に受付開始で先着50名がボストンにあるマサチューセッツ州連邦地方裁判所で開廷されているリエントリー・コート(Reentry Court=刑務所出所者のためのドラッグ・コート)に行くというものでした。私は午前8時ちょうどに受付場所で登録することができ、午前9時半に会場前から出発した、NADCPチャーターの1台の大型バスで裁判所に行きました。裁判所に着くと、携帯電話、カメラ、録音機器等の電子機器を受付で預けなければいけませんでした。中に入ると、これまで見学したどのドラッグ・コートよりも静寂、きれいでシンプルな雰囲気、しかもボストン湾に面した素晴らしいロケーションにあります。裁判所のホールには、世界中の難民キャンプの写真がパネル展示されていたり、壁には人権に関する法格言がいたるところに彫られていたりして、基本的人権を保障しようという雰囲気に満ち溢れた場所でした。

私はここで、16人の参加者の裁判を傍聴しました。1人数分ずつ判事とのやりとりがあるのですが、判事ほとんどすべての参加者に対して、ドラッグ・コートの手続きが終了した後は、NAやAAのスポンサーを頼ることの重要性について説明していました。

このリエントリー・コートのプログラムは12週間×4+4週間=52週間の5段階で構成されていて、52週間クリーンでいたときに終了するというものでした。リラプスすると最初の段階に戻されます。

6/3(木)の午前10時から開催されたオープニング・セッションでは、3,300人の参加者の前でエリック・ホールダー司法長官が基調演説者として、ドラッグ・コートを称える演説をしました(注1)。アメリカの司法長官は、日本で言えば、法務大臣、検事総長、内閣法制局長官の三者の役割をあわせて持っているようなポジションです。以下に、抜粋を記します。



ボストン湾



ボストン美術館



マサチューセッツ州連邦地方裁判所(ボストン)



「裁判官、連邦検察官、副司法長官、そして今は、司法長官として、私はドラッグ・コートによって薬物依存者がアディクションから回復し人生を取り戻し生活を向上させるのにどれほどの効果を上げるかをこの目で見てきた。

我々は犯罪を犯した人々を刑務所に入れるだけでなく、彼らが刑務所を出て、社会に再び入る時に何が起こるかに注目しなければならない。

また、薬物依存を持つ人が治療を受けることなく出所した時、それは重要な機会の喪失であると同時に社会にとっての危険性が継続することだと認識しなければならない

ドラッグ・コートは他の刑罰手段のどれよりも、犯罪を削減する。最も厳格な科学的メタアナリシスがすべて、ドラッグ・コートは他の刑罰よりも約35%犯罪を減少させると結論付けてきた。また全国で、ドラッグ・コート卒業者の75%がプログラム終了後2年間逮捕されずにいる。

断薬、回復、個人責任を推進することで、ドラッグ・コートは薬物使用、犯罪、刑務所、リハビリテーションなしの釈放の悪循環を断ち切る助けになる。無論こうしたプログラムは人々にフリーパスを与えるものではないし、厳しい、きわめて困難なものである。しかし成功した者には、生産的な未来が本当に開けている。

明らかな経済効率性と高い成功率があるにもかかわらず、ドラッグ・コートは薬物依存をもつ非暴力事犯の検挙者で、既にプログラムへの適格性を有すると判断された者の半数にしか利用されていない(注2)。ドラッグ・コートが拡大されて今現在適格な者を全員治療することができれば、1ドルの投資ごとに2ドルの経費削減となり、年間10億ドルの削減となる。もしドラッグ・コートが拡大されて薬物・アルコール乱用ないし依存の危険性のあるすべての被検挙者を治療できるようになったら、1年間に300億ドルの削減になり、何百万件の犯罪を防ぐことができると推計されている。」

このように、NADCPでは、ドラッグ・コート制度は薬物需要削減政策において必要不可欠の制度であり、その有効性についても疑う余地がないものとして広報活動が為されています。

注1: <http://www.nadcp.org/2010openingsession> で、エリック・ホールダー司法長官のNADCPにおける基調演説を見ることができます。

また、<http://www.justice.gov/ag/speeches/2010/ag-speech-100603.html> に全文が掲載されています。

注2: アメリカ50州全部にドラッグ・コートはあるとはいっても、全ての郡にあるわけではないので、参加率は約5割に留まっています。



エリック・ホールダー司法長官の演説



ボストンにあるハーバード大学のキャンパス



ドラッグ・コート卒業生が自分の体験談を話していました。



NADCPではその年に活躍した人を表彰する様々な賞があり、候補にあがる人は裁判官、検察官、プログラムディレクターなどです。



スコットランドからもドラッグ・コート判事らが来て、民族音楽を演奏していました。

**ETVワイド 薬物依存
NHK教育テレビ**
2010/8/28(土)21時~23時

「ETVワイドともに生きよう 薬物依存」という2時間番組がありました。その中でマイアミ・デイド郡のドラッグ・コートの様子が17分間放映されています。事務局長の尾田も後半から出演し、ドラッグ・コート制度や日本の刑事司法制度についてコメントしています。

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「Keep Coming Back」

TAC

「私たちの行き着く先は、皆同じ。刑務所、精神病院、施設、そして死しかないのである。」

この言葉は僕が約7年前に藤岡を退寮した時から今年の1月に再入寮するまで唯一覚えていた言葉でした。

7年前、覚せい剤と大麻の使用所持で逮捕され弁護士の紹介で藤岡の施設に繋がりました。保釈プログラムの一貫ということで、約4ヶ月お世話になりましたが、当時の僕は、プログラムや12ステップ等に全く興味を示す事が出来ませんでした。僕は、幸いにも恵まれた家庭環境と恵まれた教育を受け、有名私立学校に入学しラグビーに出会いました。高校では、全国大会に出場し主将も務めました。大学でも、もちろんラグビーを続けて華やかな舞台上で活躍しました。その後、希望通りの商社に勤め、約10年を過ごしました。僕は歪んだエリート意識のかたまりから、当然ダルクのメンバーとのフェローシップも取りませんでした。僕は、ここにいる人たちとは違う……。戻る家もあれば仕事もある、待っている彼女さえいる、そういう心理的アドバンテージを持っている僕は、入寮中でさえ大麻、薬を続けていました。中途半端な反省と見せかけの回復への意識で、薬は止められる。退寮したら今まで以上の生活を送れるものだと思います、その誤った考えを変えることなく結果として2度目の入寮となりました。

子供の頃から、僕の周りには常に厳しい競争がありました。幼稚園から始まり小学校は国立、中学校は私立と親の理想に近づくべく友達付き合いや遊びを我慢し親の送り迎え付きで塾に通い、期待に応えようとやってきました。その反面、僕は、ストレスのはけ口が無く、小学校の低学年のうちから（イジメ）に走る癖がついてしまいました。受験が終わってもその癖は止まりませんでした。元々頭の良くなかった僕は中学校に入って、勉強についていくのがやっとでした。部活から帰ってくれば、家庭教師との勉強の毎日で今考えるだけでも忙しい生活を送っていました。そんな中、更に僕にプレッシャーをかける事が起こりました。ラグビー部の主将のポストを任される事となったのです。僕の学校は、日本で一番初めにラグビーを広めた伝統を持ち、前年には全国大会ベスト16まで駒を進めていました。その主将の重圧は計り知れないものでした。今までは親の期待に応えれば良かったのが、今度は、それ以上の期待を背負う事になったのです。残念な事に、僕の代で前年全国大会に出場したのは、僕ともう一人のみであり、周りの期待を大きく下回る県大会準決勝敗退という結果でありました。大きな挫折でした。競争の世界には結果以外は必要無い。そう信じていた僕は僕を恥じ、自己憐憫に墜ちました。そこから僕は、止めていた大麻、タバコ、酒をまた始め、当時学校で流行していた咳止めを覚え始めました。大学でもラグビー部を続けレギュラーとして出場していましたが、4年生の時に尊敬しラグビーを始めるきっかけをくれた監督と衝突し、レギュラーを外されました。尊敬していた人から裏切られた喪失感から自暴自棄となり、この頃から咳止めと大麻の常習が始まり、その後は怪我や古傷を理由にし続け、腐り続けました。僕は、その頃から僕の上に立つ人に対し、完璧さを求めていき、上司、先輩との衝突を今に至るまで克服できずにいます。僕には『ラグビー部のTAC』という「形容詞」が無くなり『ただのTAC』になりました。その頃から新たな「形容詞」探しが始まり、コネのあった音楽の世界との本格的な接触が始まり、薬との関係も加速度を増し、より一層深みへとハマり続けます。

就職は要領よく商社に入り、咳止め薬を使いながら勤めていました。最初の5年はとにかく成績を残し社内表彰も何度か受け、順風満帆で過ごしました。しかしながら薬を続けながらの仕事で幸運がいつまでも続くはずがありませんでした。案の定新たに立ち上げた部署でミスを犯し上司と衝突するたびに覚せい剤への依存が高まっていきました。それからは、毎日睡眠2～3時間で週末はクラブに入り浸る日々を過ごし仕事でも覚せい剤を使用し続け、やがて一度目の逮捕となりました。クラブで遊んだ後に渋谷の109前の赤信号待ちで眠ったままで渋滞を引き起こし警察に連行されたとのちに聞きました。その時の記憶はほとんどありませんでした。

アパリ発行
「Born・Again
(ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで
FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

保釈プログラムの期間を中途半端な後悔の気持ちで、藤岡で過ごしました。判決は実刑1年6ヶ月の執行猶予5年という初犯としては異例の執行猶予の長さでした。でも、中途半端な回復心で物事は好転しませんでした。覚せい剤は止まったものの、咳止め薬の使用量は1日に10本以上まで増え続けました。その後は実家の倒産、父親の病気、借金、転職等底の見えない転落を味わいました。ストレスに耐えきれず、執行猶予中に2度窃盗で捕まり示談で懲役を免れました。しかしながら昨年3度目の窃盗で家族、彼女にも愛想を尽かされ、仕事も失い自己破産し本当の底つきを初めて思い知りました。幾度か睡眠薬での自殺も試みましたが死ぬ事など到底出来ません。そこで冒頭の(私たちの行き着く先は皆同じ、刑務所、精神病院、施設、死しかないのである。)という言葉の思い出し施設という選択を選びました。幸いにも施設側が情状証人に立ってくれた事により、執行猶予3年をもらい現在に至ります。ダルクへ再入寮し自分自身と初めて向き合いました。毎日が自問自答の繰り返しです。その度僕の欠点から来る生き辛さを感じます。でも、それもいずれ治ると信じています。人生で負けてもそれで終わりではないと知った僕には性急さや虚栄心もありません。

今回、自分自身がなぜ6カ月のクリーン期間を築いて来れたのかを考えることがあります。それはきちんと自分の問題と向き合い、プログラムに取り組む姿勢が大切だと気づけた事です。僕には藤岡という施設が必要です。施設の雰囲気や考え方が自分に合うと思える事と群馬の仲間が自分にモチベーションを与えてくれる事に感謝しています。1度目の入寮よりも、クリーンの質を高めて、これからも仲間とプログラムを通じ、「スロー」でいい意味での『曖昧さ』を持って生活していきたいと思います。

お知らせ！！

DARS

第5回薬物依存症者回復支援セミナー開催！
2010年10月9日(土)・10日(日)
会場：北九州市立北方キャンパス本館C303教室
参加費：3,000円+カンパ
主催：龍谷大学矯正・保護総合センター

申し込み・問い合わせは
電話：075-645-2040
FAX：075-645-2632



第1回リカバリー・パレード「回復の祭典」

「依存症、精神障がい、生きづらさ」から回復している本人、家族・友人、関係者、そして一般の賛同者が新宿に集まって、「回復」を喜び祝うパレードを行い、一般の人たちに回復の姿をアピールします。

- 【集合日時】 平成22年9月23日(木・祝)12時～12時30分
 - 【集合場所】 新宿中央公園「水の広場(ナイアガラの滝前)」
 - 【パレード】 13時からパレード開始!(約1時間)
- 甲州街道(国道20号線)に出て新宿駅南口を通り、明治通りを左折。靖国通りを渡り、少し進んだところのサブウェイ前の路地まで。到着次第解散。
集合場所は変更ありませんが、パレードのルートは当日変更になる可能性があります。



パレードの詳細はホームページでご確認ください。
<http://recoveryparade-japan.com/index.html>



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0014
東京都台東区北上野2-2-2
電話 : 03-5830-1790
FAX : 03-5830-1791
Email : info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

(運営: 日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話 : 0274-28-0311
FAX : 0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に13ヶ月

【入寮費】

月額16万円 (初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/np/>

発行者: 近藤恒夫
編集責任者: 志立玲子
平成22年9月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

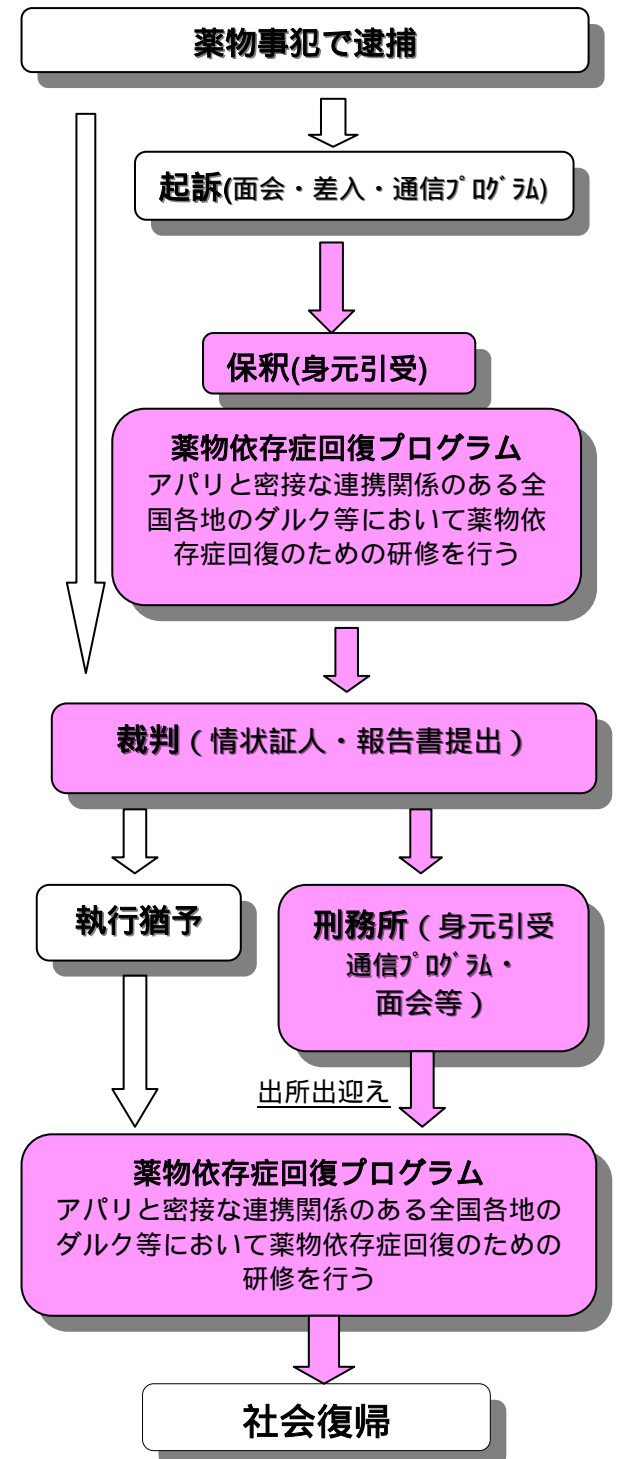
保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本の覚せい剤事犯の再犯率は約60%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**10%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

ギャンブルの問題が原因で逮捕された方もご相談ください。

[費用: コーディネート契約料として一律20万円。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

[お問合せは東京本部まで]

アパリの支援



<アパリ・家族教室>

日時	テーマ	ファシリテーター
9月6日(月)	ウツと薬物	町田 政明
9月20日(月)	とらわれからの解放	町田 政明
10月4日(月)	思い込みを捨てる	町田 政明
10月18日(月)	罪悪感と恐れ	町田 政明
11月1日(月)	家族の落とし穴	町田 政明

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30(祝日も開催します)

【場所】アパリ・クリニック上野2階 【参加費】3,000円(2名の参加は4,000円になります)

【内容】ファシリテーターと家族との分かち合いを行います。【予約】不要です

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など 【料金】45分 9,000円

【場所】アパリ東京本部 【カウンセラー】町田政明(元神奈川立せりがや病院勤務、

ホープヒル代表、寿アルク理事) 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790 【注意事項】当日

のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。